**平成３０年度　西都市立三納小中学校**

（児童）

〈生徒〉

〔保護者〕

【職員】

**№１**

（評定）4達成　３おおむね達成　２基準までもう少し　１達成不十分

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 重点目標 | 評価項目 | | 評価指標 | 評定 | | 学校の自己評価と改善策 | 関係者評定 | 学校関係者評価コメント |
| １回目 | ２回目 |
| 確  　か  　な  　学  　力  　の  　定  　着 | １ | ４つのチェックポイントを意識した日常授業の改善に努める。 | ・1単位時間の授業の中での一人一人の理解度の評価  ・授業における学習内容の定着や習熟を図る時間の設定  ・指導内容の精選 | （３．７）  〈３．１〉  〔２．６〕  【２．８】 | （３．６）  〈３．１〉  〔２．６〕  【２．８】 | ・研究授業を一人一回するなど、日常授業の改善について考える機会が多くあり良かった。  ・児童生徒の実態に合った指導内容の精選ができておらず、定着や習熟を図る時間が十分に取れなかった。  ・学力検査結果の分析を活用して全体の指導はできたが、個に応じた指導まではできていない。  ・読書の時間の確保を行う。  ・作品（作文等）を積極的にコンクールなどに応募した。  ・解けることが１番の喜びだと思うので、自力解決できる力を身に付けさせることが課題である。  ・台風等の影響で時数確保が難しかった。来年度は10連休あるので、更に行事の精選を図っていくことが大事である。 | ３ | ・先生方が「児童生徒全員がわかる授業」を実践していることが確かな学力に繋がっている。  ・全国学力調査等の分析をして、三納小中の児童生徒の実態を把握しているということだが、それをもとに小中ともに、全国平均にまで上げてほしい。  ・私立高校入試が全員第一志望合格という結果から、確かな学力が身に付いていることがうかがえる。  ・読書の時間の確保をどれくらいしているのか。児童生徒が読書に親しめるように時間の確保など、工夫をしてほしい。 |
| ２ | 学力調査の分析と学習指導の工夫改善を図る。 | ・学力検査結果の分析を活用した個別指導の充実  ・デジタル教材、ＩＣＴ活用の推進  ・読書・作文指導の充実  ・校内研究を通した全職員による指導方法の工夫・改善 |
| ３ | 教育課程の工夫を通して予備時数を確保し、学習の喜びを味わわせる。 | ・学ぶ喜びを実感させることを意識した授業づくり |
| 明  るく楽しい学校生活 | １ | 自分からあいさつできる児童生徒100％をめざす。 | ・あいさつは、「いつでも、どこでも、誰にでも、心を込めて」の意識付け  ・児童会・生徒会を中心とした自発的なあいさつ運動の推進 | （３．３）  〈２．８〉  〔３．２〕  【２．８】 | （３．４）  〈３．１〉  〔３．４〕  【２．８】 | ・気持ちの良いあいさつは一部の児童生徒で、意識付けや指導が必要である。  ・あいさつ、清掃ともに全校児童生徒の意識を高める手立てが必要である。  ・ＳＳ委員会（小）や職員朝会（中）、教育相談が計画的に行われており、常に情報共有ができている。  ・「特別の教科　道徳科」についての研修を充実させ、確実な実施を図る。  ・６年生と中学生による朝のボランティア活動、中学部3年生による西都市のボランティア活動が行われた。  ・清掃班長がもっと積極的に動けるような指導が必要である。  ・清掃指導をしたことにより、清掃態度がかなり改善した。（中学部） | ４ | ・「あいさつのできる児童生徒100％」を目指しているのであれば、もっと徹底してもいいのではないかと思う。  ・下校時の様子から、すばらしいあいさつができる児童生徒もいることがわかる。  ・児童生徒にばかり要求するのではなく、地域の者も自分から積極的に児童生徒にあいさつをするようにしないといけないという反省点がある。  ・あいさつに関しては、まず家庭の教育力が大切だと思う。家庭への呼びかけ等が必要である。  ・「いじめはある」というスタンスが大事。  　その考えで学校が取り組んでいるので安心である。 |
| ２ | 毎月アンケートを実施し、積極的ないじめ・不登校等対応を行う。 | ・日頃の児童生徒観察(ちょっとした変化も見逃さない)  ・生徒指導の三機能を生かした指導  ・道徳的実践力に繋がる、道徳科・道徳の授業時間の充実  ・ソーシャルスキルトレーニングの実施 |
| ３ | 一生懸命掃除に取り組む児童生徒100％をめざす。 | ・役割と責任を自覚させる工夫  ・班長を中心とした主体的な清掃態度の育成  ・ボランティア活動の工夫・改善 |

（児童）

〈生徒〉

〔保護者〕

【職員】

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 重点目標 | 評価項目 | | 評価指標 | 評定 | | 学校の自己評価と改善策 | 関係者評定 | 学校関係者評価コメント |
| １回目 | ２回目 |
| 健康教育の推進 | １ | 体育科（保健体育科）授業における三納っ子ウォーミングアップ運動の推進を図る。 | ・体育科（保健体育科）授業における指導方法の工夫・改善  ・体力テストを活用した体力向上プランの作成  ・専門家を招聘しての指導の充実 | （３．８）  〈３．４〉  〔３．２〕  【２．８】 | （３．８）  〈３．５〉  〔３．１〕  【２．４】 | ・三納っ子ウォーミングアップ運動を積極的に取り入れるために、職員への啓発が必要である。  ・体力向上プランを意識して取り組む。  ・専門の指導者を積極的に活用した。（小学部陸上・中学部柔道）  ・児童と生徒の接触事故が年度当初１件発生した。幸い軽いものであったが、自転車の乗り方についてしっかり指導していきたい。  ・集団下校の仕方を再考する必要がある。  ・「食育」について養護教諭が中心となり､栄養教諭と協力して計画的な食育指導に取り組んた。  ・すこやかチェック結果を指導につなげる工夫をする。  ・給食着やマスク忘れ、爪が伸びている児童生徒がなかなか０にならない。 | ４ | ・運動会の様子や中体連の結果などから、きちんと指導できていることはわかる。  ・自転車の乗り方や徒歩での登下校の様子は、交通ルールをしっかり守っており、すばらしい状況だと思う。  ・好き嫌いが多い児童生徒がいることに関しては残念である。さまざまな食物の大切さをしっかり低学年の時から教えてほしい。  ・栄養教諭との連携ができているということであるが、食べ物で自分の身体はできているということ、好き嫌いは将来の生活習慣病にも繋がることも教えてほしい。 |
| ２ | 安全指導の充実を図り、自転車事故ゼロをめざす。 | ・交通安全教室の計画的な実施・指導の徹底  ・交通ルールを守る指導の徹底  ・自転車通学に関するルールの遵守 |
| ３ | 何でも食べる児童生徒100％をめざす。 | ・基本的な生活習慣の定着と食育の推進  ・健康生活の習慣化（心身の健康）  ・給食の時間の指導の工夫・改善 |
| 家庭や地域に開かれた学校づくり | １ | 学校だより、ホームページを活用し、家庭・地域の学校教育に対する理解を深める。 | ・「学校だより」「学級通信」の充実  ・ホームページの充実  ・学校参観、学校保健委員会、家庭教育学級等の充実  ・鑑賞教室等の保護者や地域への紹介及び参加呼びかけ | （３．８）  〈３．３〉  〔３．０〕  【３．１】 | （３．７）  〈３．６〉  〔３．１〕  【３．２】 | ・学級通信やホームページなどで学校の様子がよく家庭に発信できている。  ・学校保健委員会、家庭教育学級など計画的に工夫がなされ、充実したものになっている。  ・鑑賞教室や教育講演会など、保護者や地域に積極的に紹介している。  ・性や食、薬物乱用等、外部指導者との連携を図りながら、児童生徒への指導に当たることができた。  ・地域人材の活用を地域づくり協議会の協力を得ながら積極的に行うことができた。  ・三納フェスタの共同実施、三納川クリーン作戦や長谷観音祭へ参加し、地域の活性化や貢献を図ることができた。  ・学校関係者評価委員会での協議内容を全職員に周知する。 | ４ | ・各学年、週１で学級通信を発行していたり、ホームページにはいつも新しい情報が載っていたり、充実している。  ・鑑賞教室や教育講演会など地域へ紹介があり、有り難い。  ・地域の方々と児童生徒との関わりが多くの機会でできている。「地域づくり協議会」を中心に活動できており、学校と地域の連携はすばらしい。  ・地域の祭に児童生徒が参加したり、地域の者と一緒にボランティアをしたり、一緒に三納フェスタが開催できたり、よかった。  ・民生児童委員との連絡協議会を立ち上げたので、それを役立てて、有効な連携の在り方を考えていけば良いと思う。 |
| ２ | 地域の教育力を発掘し、外部指導者としての協力を仰ぐ。 | ・地域人材情報の収集  ・全職員での情報共有  ・学校行事での地域人材・素材の活用  ・「さいと学」の充実 |
| ３ | 「三納地域づくり協議会」「三納地区民生委員児童委員協議会」との連携を深め、相互理解・情報の共有等を図る | ・地域行事への児童生徒の参加促進  ・読み聞かせボランティア（ブックハート）や見守り隊との連携  ・地域行事の企画における学校側の協力  ・学校関係者評価委員会の充実 |

**№２**